

6月議会  
定例会

新型コロナウイルス感染症

対策事業実施に伴う予算措置

6月議会定例会が6月9日から4日間にわたり開催され、上程された20案件について原案どおり可決されました。



行政報告

◆農林業関係について

今年の稲作は、今冬の記録的な少雪により、代掻き期の用水不足が懸念されたものの、農家の方々の状況に応じた水管理と適時の降雨により、問題なく作業が進められておりました。田植え作業は、

今年並みに5月末現在で大規模農家の一部分を残してほぼ植え付けは完了し、生育も順調です。

今後は適切な水管理による茎数の確保

が図れるよう、関係機関と連携しながら、稲作の情報提供に努めていきます。

今年度における米の生産の目安は2,276t、416.6haに対し、実際の作付けは2,389t、432.4haと目安を超過していますが、現在JAあきた白神全体では、実需業者との出荷契約数量に対して、不足している状態であり、当町の超過分はその一部に充てられます。リンドウにつきましては、適度な降水と、5月下旬からの気温の上昇に伴い、生育も順調であります。

しかし、少雪のため萌芽が早まったことで、採花時期が最需要時期のお盆前に前倒しになる可能性があります。露地栽培でするので、天候に左右されることは、やむを得ないところですが、今後の生育状況を注視しながら、適切な栽培管理ができるよう情報提供を図っていきます。町営大野岱放牧場における細羊の出生頭数ですが、5月末日現在で120頭となっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により外食産業の冷え込みなどで、ラム肉の需要が一時的に低迷することが予想されますので、これを機に、自家保

留頭数を確保し、今後の供給拡大に繋げたいと考えています。

林業関係では、6年目を迎えた「木の駅事業」ですが、例年どおり4月1日より木の受け入れを開始しています。出荷登録者は、昨年度から1名増の20名となっております。今後、事業の周知に努めていきます。

例年、この時期は、山菜・タケノコ採りの方がクマに遭遇する事例が発生しており、県内では4月末から現在までに各地で目撃情報が相次ぎ、仙北市などでは人身被害も発生しています。

本町では、秋田県の許可を受けて3月下旬から5月中旬まで個体数調査を行っており、内川と白石沢においてそれぞれ1頭、計2頭を捕獲しています。また、町内でも数件の目撃情報が寄せられており、今後も情報の収集や、広報活動により町民に警戒を呼びかけていきます。

さて、昨年度より始めました森林環境税関連事業ですが、本町では昨年度中に矢坂地区の一部を対象に、説明会並びに事前意向調査を実施しています。

今年度は、町全体の森林状況調査、境界明確化などの業務委託を実施するべく、関連する歳入、歳出の予算を計上しており、当町の森林資源の適切な保全管理を図っていきたくと考えています。

◆藤里開発公社の株主総会

今期の決算につきましては、昨年の冷夏による白神山水の売上低下、このたびの新型コロナウイルスの影響も重なり、当期純損益で23,595千円の赤字という結果になってしまいました。

今後の運営につきましては、世界規模で各方面に影響をおよぼしている新型コロナウイルスの影響の中で雇用調整助成金や持続化給付金、あるいは無保証・無担保の融資の確保に努めながら取り組んでいきます。

また、役員の改選におきましては、田代専務の任期が満了となり、御本人から今期を持って辞意が表明されました。

専務におかれましては、任期中、経常収支の黒字化と各部門の自立化を図ることを目標に職務に励んでいただきました。短期借入金資金の長期への借り換えや、エコマイザーの導入、あるいは各部門において、まかせられる社員を育てていただくなど、4期8年の長きにわたり公社の経営改善にご尽力いただき、このたびの勇退となりました。

専務のご尽力に改めて感謝申し上げます。今後の体制につきましては、当面は常勤役員を配置せず、各部門長と本部で調整しながら、副社長を中心に運営することとし、あり方検討委員会の検討結果を踏まえ、町として検討したうえで配置が必要と判断した場合は、公募あるいは直接依頼等も含め検討したいと考えています。